

令和 4 年度 第 1 回 健康づくり推進協議会 議事概要

開 催 日 時	令和 4 年 6 月 15 日(水) 15:00 ～ 16:30
会 場	万代シルバーホテル 5 階 万代西の間
出 席 委 員	飯濱委員、上村委員、小林委員、清田委員 玉木委員、藤井委員、山口委員、山崎委員〔五十音順〕
議 題	1. 令和 3 年度保健事業実施結果について 2. 令和 4 年度保健事業計画について
議 事 概 要	議題1. 令和 3 年度保健事業実施結果について 議題2. 令和 4 年度保健事業計画について 参考資料①循環器疾患の予防に着目した新たな受診勧奨対象 参考資料②令和 4 年度保険料率について 参考資料③協会けんぽの都道府県支部別医療費・健診結果の分析について ○資料に基づき説明 ～ 意見交換 ～ ●令和 3 年度保健事業実施結果について 【行政関係】 健診実施率について事業所健診データ取得率 8.8%はどう出しているのか。 《事務局》 協会けんぽの補助を使った生活習慣病予防健診以外の定期健診等を受けた場合、健診結果が自動的に協会けんぽに提供されないので、事業所に 40 歳以上の被保険者の健診結果データをご提供いただくように依頼をしている。 生活習慣病予防健診の対象者数と分母は同じで、生活習慣病予防健診を使ってない事業所から提供いただいている被保険者数をパーセンテージで表している。 【行政関係】 生活習慣病予防健診については対象者にどのように案内されるのか。申し込み方法、健診機関はどのようなところがあるか。

《事務局》

毎年 3 月中旬から下旬にかけて、生活習慣病予防健診の対象者がいる事業所に対し、健診のパンフレットや対象者一覧を送付し被保険者へ周知していただいている。

申し込み方法については、予約は協会けんぽと契約している健診機関に直接電話等をお願いしている。健診結果のデータについては健診機関から協会けんぽに送られるようになっている。

健診機関については 37 機関を掲載。大きいところで労働衛生医学協会や健康医学予防協会など検診車を使って県内全域をカバーできるようなところや、北は山北徳洲会病院、南は糸魚川総合病院健診センターなどがある。令和 3 年度に五泉地域がなかったので五泉中央病院と契約して、県内全域をカバーできるようにしている。

【学識経験者】

契約している健診機関から個別で受診した場合のデータを取得しているのか。

《事務局》

事業者健診のデータはデータ取得のための契約を結んでいる健診機関から提供を受けている。契約している健診機関で受診した方については事業所に同意を得ることでデータがもらえるが、契約ができていない健診機関もあるので、そうしたところを対象に契約拡大を図っていくことで取得率の向上を図っている。

【保健医療関係者】

- ①特定保健指導について、男女の改善率の差はあるか。
- ②歯科検診を補助として組み込んでいく予定はあるか。
- ③骨粗しょう症の健診について、西高東低で西日本が高い傾向にあり、骨折すると医療費が高くなる。一度骨折をすると反対側も骨折しやすくなるので、リスクが高い方へのアプローチ、取り組みなどはあるか。

《事務局》

①特定保健指導については男性の方が対象者数が多いことから受ける率は高い。男女の改善率の差については、本部へデータがあるか確認してから回答する。

②歯科検診については国で行う方針が出ているようだが、歯と生活習慣の関連については本部でも重要だと考えている。数年のうちに取り入れるかどうかは国の方針を踏まえて検討していくと思われる。

③まだ歯科検診、骨粗しょう症については本部から何も示されていないので、何かあった際には報告したい。

【保健医療関係者】

保健指導については被扶養者で男性の方が該当率が高い。男性の方が食事や運動など改善の取り組みが良い印象。

【学識経験者】

ICT の活用方法について対面ではないので限界や問題点、コミュニケーションの取り方について問題などあるか。

《事務局》

zoom を使い、顔を見ながら話すことはできるが、腹囲や身長がどれくらいかなどといった点が感じ取りにくい部分はある。事前に生活習慣のアンケートを記入していただくので、対面だと一緒に見ながら確認できるが、リモートの場合は事前に郵送での提出をお願いしている。郵送物が届かない場合だと、指導の時間内 20～30 分の間で対象者を把握しないといけないので、そうしたやりづらは感じている。コミュニケーションをとることはできているが、音声が届かないといった問題があった場合には、zoom で画面を見て、電話を使って話すといった対応をとることもある。

●令和 4 年度の保健事業について

【学識経験者】

業界団体との連携について、運輸業態への受診勧奨はどんなことをしているのか。

《事務局》

四半期に一度運輸関係3団体(新潟県トラック協会、バス協会、ハイヤー・タクシー協会)に対し、協会けんぽの健診等について掲載したチラシを渡している。広報誌に掲載していただいたり、紙媒体を提供し、郵送物に同封してもらったりするなどし、受診勧奨を行っている。

【被保険者代表①】

①実施目標数の被扶養者の分母はどう出しているのか。

②被保険者が受診しているところはその配偶者である被扶養者も受診しているといった関連性はあるか。

《事務局》

①40～74歳の被扶養者を対象とし、本部から 3 月時点で被扶養者の想定数が示されるのでそれを分母としている。

②被保険者は基本的には会社でまとも健診を受けているという印象だが、人によっては被保険者と被扶養者、夫婦一緒に人間ドックを受けるという人もいる。以前、被扶養者あてに事業主と協会けんぽ支部長との連名による健診の受診勧奨文書を送付する事業を行ったことがあるが、被保険者の受診率が高いところは被扶養者の受診率も高いという印象がある。

【事業主代表①】

生活習慣病予防健診の受診促進について、運輸業の健診受診率が低いという話があったが、逆に健診受診率が高い業態はどこか。高い業界にも受診勧奨することで更なる促進を依頼する手段もあると感じる。

《事務局》

製造業や複合サービス業、娯楽業などが高い。

【事業主代表①】

製造業だと 1 日機械を休めているときに受診するといったこともできるので、そういったことも実施率の高さに

影響があるのではないかという印象を持っている。

【事業主代表②】

がん検診について血液、胃や肺などの検査を行っているが、今では線虫検査などで、すい臓などの見つけにくい部分も発見できるのではないかという情報もある。協会けんぽでは現行以外での検査を導入する予定等はあるか。

《事務局》

国のほうで専門家が協議していると思われるので、協会けんぽ本部としては国の動向を見て検討すると思うが今のところの予定はない。

【保健医療関係者】

線虫の検査は癌の箇所が分からないといった問題がある。そうすると二次精検でのコストの面がかかる。二次精検で効率よく癌を見つけられる方法を確立しないと健診として採用は難しい。有効性はあるように感じる。

【被保険者代表②】

特定保健指導について、被扶養者は被保険者からの働きかけも大事と感じる。

重症化予防の対策として、委託業者から事業所に電話がくることがあるが、委託業者のどういった人が架電での対応をしているのか。

《事務局》

実際に架電するのは、委託業者に在勤している保健師、看護師が行う。

【健康保険委員代表】

企業としては 70 歳以上の勤務者も重要な戦力となっている。その中で社員の健康をいかに管理して長く気持ちよく働いてもらうことが事業所の課題であると思うので、いろんな情報を共有するなど協会けんぽともタッグを組みながら進めていければいいと考えている。

【学識経験者】

被扶養者への特定保健指導について、集団会場での特定保健指導実施は本人の意識が高いということもあって効果も高いと思うが、ICTを活用すると一方通行になってしまうこともあるので、双方向性など考えた工夫を入れたら効率が上がると思われる。YouTube を見るだけといった一方的なものについては、なるほどで終わってしまう懸念がある。

《事務局》

扶養家族への特定保健指導について、個人対応を検討中である。個人でのICTの設備は難しいと思われるので、貸会議室等会場を借りて近くにお住いの人を対象にするなど、検討をしたいと考えている。

【学識経験者】

来てくれた人には運動や食事など改善を促すようなパンフレットを配布するとインセンティブにつながる事が期待される。

●参考資料①「循環器疾患の予防に着目した新たな受診勧奨対象」について

【保健医療関係者】

労働衛生医学協会が3年前加藤先生のNext10を盛り込んだ事業を行ったので、情報共有をされるといわれる。新潟大学の循環器専門の教授によると、心房細動に引っかかると脳卒中リスクが高くなるようで、引っかかっているのに未受診の人が多くいる。重症化予防対策として、心房細動について対象者に取り入れるとよいと思うが、いかがか。

《事務局》

Next10の加藤先生はデータヘルス計画でご助言いただいているので、今後も情報をいただいきたいと考えている。

心房細動については、LDL コレステロールの結果による対象者抽出は全国で行っているので、今後ご助言等いただければと思う。

【保健医療関係者】

加藤先生が今年から医療機関に対し、新潟大学の教授と一緒に心房細動の方で未検査の人に対する受診勧奨を医療機関に広報するなど取り組みを行っているので、そういったところと協力して行っていくと良いと思われる。

特記事項	
------	--

次回は令和4年12月開催予定